



むと!

# おびにし わくわく通信

NO.155

2025.01.08

文責:荒木



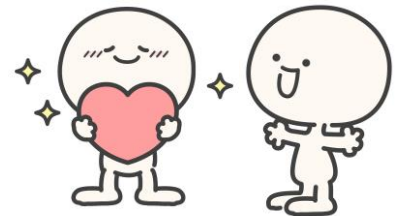
## 今年もよろしくお祈いします

いよいよ令和7年の幕があけました。元旦の朝は寒かったのですが陽光を浴びながら、心と体を温め、新年を迎えることができた感謝と、今年への新たな決意を胸にすることができました。また、昨年正月早々に起きた、能登半島地震では、1年が経とうとしている今でも、多くの苦しんでいる方がいらっしゃいます。思いを馳せ、自分にできることをしっかりと地に足を着けていきたいと決意を新たにしました。昨年も書かせていただきましたが、熊本地震のときから、世の中で起きていることを他人事とせず、想像力を働かせて、今自分にできることを考えて、それを具体的な行動目標にして、しっかりやっていくことが最善の打開策に繋がると考えています。始業式でも子供たちに話をしましたが、今年も、一人の大きな力で進むのではなく、一人一人の合意形成・意思決定をしながら学級・学校創りを進めていく帯山西小学校でありたいと思っています。保護者の皆様、地域の方々、今年もどうぞよろしくお祈いいたします。



## 和顔愛語

和顔愛語は「わげんあいご」もしくは「わがんあいご」と読み、元々仏教の世界で使われている言葉です。「和顔」とは、和やかな顔ということで、笑顔のことです。「愛語」とは、優しい言葉ということです。和顔愛語とは、にこやかな笑顔と優しい言葉で人に接することとされています。始業式でも子供たちには、「にこやかな笑顔で相手に優しい言葉をかけると、相手はその言葉によって幸せな気持ちになり、それを見たり聞いたりした周りの人も明るく幸せな気持ちになります。そういう行為が学校中に広がると、もっと帯西が『わくわく』で満ち溢れた学校になります。」という話をしました。



自分が順調で心に余裕があるときは、他人に対して思いやりの心を持って接することができます。ところが、自分に余裕がなく、辛い状況の中では、笑顔を向けたり、他人に優しい言葉をかけたりするのはとても難しいことです。「今の自分は笑顔や優しい言葉で人と接することはできない。」とそれを言い訳にしてしまうのですが、それではどんどん人は離れ、心もすさんでいくでしょう。人は大なり小なり誰も満たされない心がありますが、そんな状況でも、周囲への思いやりを忘れず、いつも笑顔や優しい言葉に心がける人こそ素晴らしい人だと言われます。

和顔愛語を心に留め、今年も「わくわく」いっぱいの素敵な学校にしていきたいと思っています。和顔愛語には続きがあります。それはまた3月のむらさき朝会で話をしたいと思っています。